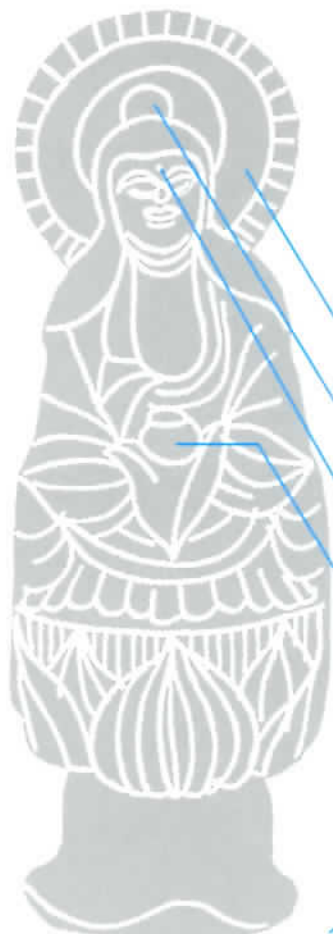


仏像を見る時のポイント



◆ 仏像はいろんな姿をしています。

姿、着るもの、手の形、持っている物のちがいで、それぞれの意味や役割があります。「さとり」を開いた仏様を「如来(によらい)」といいます。人とちがったたくさんの特徴があります。

- 光背(こうはい)..... 仏像の付属品。仏様が光りかがやいていることを表しています。
- 肉髻(にっけい)..... 頭の上の大きな盛りあがり。知恵が優れていることを表しています。
- 白毫(びやくごう)..... おでこに白く長い毛がまるまったもの。光を放ち世界を照らします。
- 薬壺(くすりつぼ、やっこ)..... 薬師如来のマークです。
- 台座(だいざ)..... 仏像の付属品。仏様がいる場所を表して、座わったり、立ったりしています。これは、ハスの花をかたどっています。

ほかにもいろんな
仏像を見てみよう!

ほかにもどんな、
作品があるかな?

この作品を作った人

もくじき

木喰

(1718-1810年)

江戸時代に日本各地を旅しながら仏像をつくっていた人です。

ノミのあとをのこす彫り方で、ほほ笑みをうかべた表情の作品が多くあります

よう 俑とは?

昔の中国で、亡くなくても生きている時と同じような生活ができるように、お墓と一緒に埋葬した、いろんな人間、動物、鳥、日用品をかたどったものです。これは粘土で作られていますが、金属や木の俑もあります。人と同じ大きさでとても写實的に作られた、中国の兵馬俑などは有名です。

実篤に挑戦!

お気にいりのポイントから、
作品をモデルに描いてみよう。



実篤が描いた作品

◎「花と俑」

1979年



かん かさい けいよう
◎漢加彩鶏俑

高さ：12.5cm

とう ぶじょう
◎唐加彩舞女俑

高さ：24.0cm



もっと知りたい

武者小路実篤

美術品に親しむ 3

立体の作品

絵の多くは平面に描かれていますが、彫刻や陶器、人形などは立体なので見る位置で、表情や見え方がちがいます。

いろいろな高さや方向から見て、作品ひとつひとつのお気に入りのポイントを探してみよう。

もくじき やくし によらい ざ ぞう 木喰「薬師如来坐像」

薬師如来は、病気やけがの苦しみを救う仏様です。
高さ：72cm



◆ 仏像の姿は、人とちがうよ。
どこがちがうかわかるかな？
見つけたことを書き出してみよう。



い かん だん しん ぞう 衣冠男神像

冠をかぶった正装姿の神様の像です。
高さ：36.5cm



◆ 仏像の視線や表情が、見る位置で
どんなちがいがあるかな？ くらべてみよう。

(高さ) 上から
まっすぐ
下から

(方向) 正面から
横から

薬師如来坐像 と 衣冠男神像

どちらも一本の木から彫られた像だけど、
ずいぶん形や印象がちがうよ。
像を見くらべて、どんなちがいがあるかな？

ヒント 顔、着物、体の形や彫り方、表情をくらべてみよう。